日小整会誌（J Jpn Ped Orthop Ass）20(2)：312, 2011.
第21回日本小児整形外科学会学術集会　主題1

ペルテス病

座長：渥　美　　敬

ペルテス病に対する治療の新しい試み，予後予測，評価法が報告された．西須らは，ペルテス病重症例に対する大腿骨屈曲骨切り術4関節の短期成績を報告した．Containment 療法には限界がある治療困難症例に対し，渥美が推奨した生きた骨を荷重面に移動する理論に基づいて行った手術治療であるが，著者らが大腿すべり症に行ってきた屈曲骨切り術を応用した手技である．屈曲骨切り後の術後短期X線変化を各症例につき述べ，重症例に対する今後の結果が待たれる．中村らは，骨成熟を迎えたペルテス病における大腿骨頭形態評価の試みを報告した．保存治療例に対する研究報告であり，考案した新しい計測法である「% Sphericity of the femoral head」を述べた．この計測法の有用性を述べ正面像，側面像ともに強い正の相関があることを示し，大腿骨頭形態の定量的な指標になりえると報告した．西田らはペルテス病発症後の臼蓋後捻の生じる時期について，時間的変化を検討し報告した．MR 画像，CT 像の axial 像からの検討であるが，初期複数回の画像からの有用な所見について述べ，病初期から臼蓋前捻角が減少することを明らかにした．また，cross-over sign が比較的高率にみられることを報告した．これらは originality のある報告であり，更なる研究継続が期待される．